

科目名	看護解剖生理学Ⅲ 消化器系・腎泌尿器系・内分泌系・生殖器系 (消化・吸収・排泄・内部環境を整え、生殖を維持するしくみ)					DP4 DP6	看護高等課程
学年	1年	分野	専門基礎 人体のしくみと働き	時間数	27時間	担当 教員	外部講師・専任教員
科目 概要	人体の解剖生理学の知識は、看護の重要な役割である日常生活行動の援助の土台となる。また、ほとんどの日常生活行動は、複数の器官が関与して行われる複雑な機能であり、生活行動の観点から学ぶ。ここでは、消化器系・腎泌尿器系・内分泌系・生殖器系の解剖生理から消化・吸収・排泄・内部環境を整え、生殖を維持するしくみを学ぶ。						
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物を摂取して消化吸収し、排泄するしくみを理解することができる。 2. 尿を作り老廃物を排泄するしくみを理解することができる。 3. 内部の環境を整えるしくみを理解することができる。 4. 生殖を維持するしくみを理解することができる。 						
回数	単元項目	授業内容			形態	担当教員	
1～7	食欲、咀嚼、嚥下	食欲（食欲と摂食行動・食欲の調節）、咀嚼（口腔の構造と機能・歯・咀嚼）、嚥下（咽頭・食道の構造と機能、嚥下）			講義	専任教員	
	消化	胃・小腸・肝臓・胆嚢・膵臓の機能					
	吸収	糖質の消化と吸収、脂肪の消化と吸収、タンパク質の消化と吸収、ビタミンの吸収、水の吸収					
	排泄	大腸の構造と機能、排便の機序					
8～9	腎臓、尿管、膀胱、尿道 排尿の生理	腎臓（腎臓の構造と機能、尿の生成、血液成分の調節）、尿管、膀胱、尿道 畜尿の機構、排尿の機構、骨盤底筋群の役割			講義	外部講師	
	生殖	女性生殖器、男性生殖器					
10～13	内分泌とホルモン、脳にあるホルモン分泌器官	内分泌とホルモン（内分泌系、ホルモンの化学的性質と作用機序）、脳にあるホルモン分泌器官（視床下部、下垂体、松果体）			講義	専任教員	
	甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺	甲状腺（甲状腺ホルモン・カルシトニン）、上皮小体、膵臓（膵島の働き・血糖の調節・糖尿病）、副腎（副腎皮質・副腎髄質）、性腺（卵巣・精巣）					
	古典的内分泌器官以外のホルモン分泌	消化管、腎臓、胸腺、心臓（ナトリウム利尿ペプチド）、脂肪、その他					
14	試験	(1時間)			試験		
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	新看護学1 専門基礎 [1] 人体のしくみとはたらき 新看護学11 成人看護 [3] 腎・泌尿器疾患患者の看護 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							